

英語総合演習 休校中の課題② 4月17日発行

和文英訳

次の日本語を英語に直しなさい。

ノートを1冊用意して、問題の和文を書き、その下に英訳を書きなさい。

翌週に解答例と解説を示すので、赤で訂正をすること。そのノートは学校が始まってからノートを提出してもらいます。4月10日に出题した問題もそのノートに再度解答して、答え合わせも赤でしてください。

4月10日の分

- 1) ウィスキーのボトルを2本も空けて車を運転するのは危険だ。

- 2) 交通量の多い通りを、信号が青に変わらないうちに横断するのはとても危険です。

- 3) 早朝、鳥のさえずりを聴きながら散歩するのは本当に気持ちがいい。

4) 日本の高校生の大半が、大学入試に備えるために塾に行く。

5) 日本人は、エレベーターや信号待ちだと、わずか30秒でイライラし始める。

4月17日の分

6) 列車で隣に座ったおじいさんに、どこまで行くのと尋ねられた。

7) 公共の交通機関では不便だから、レンタカーを借りてその街をあちこち見て回るのはどうだろう、とジムは言った。

8) いつ結婚するか、子供を産むか生まないかは、各人の自由な判断によるべきだ。

9) 大地震がいつどこで起こるかは予測不可能だ。

10) ジムは万事うまくいくと言い張ったが、私は心配で仕方なかった。

4月10日分の解答例と解説

1) It would be dangerous to drink two bottles of whiskey and drive a car.

英文を書く時には、まず現実か仮想かの識別が大切。日本語ではこの識別があいまいなので、英作文では間違えやすい。たとえば、「～は危険だ」
=It is dangerous to (V)とは限らない。本文の「ウイスキーのボトルを2本も空けて車を運転する」というのは普通はあり得ないから、仮定法を用いて、It would be dangerous to (V)とする。だが、It is dangerous to (V)は「文法的に100%間違い」ということではなく、「極めて不自然な英語」ということ。

(例) I'm so hungry that I could eat a horse.

「お腹がすいているから馬1頭でも食べられる(だろう)」

どんな大食漢でも、馬1頭を「完食」することは不可能だから、I can eat a horse とするのはおかしい。日本語では区別しないところなので、英語で書く時には注意が必要。

「ウイスキーのボトルを2本も空ける」は「ボトル2本のウイスキーを飲む」と考える。

「車を運転する」の時制は？と尋ねると「現在」と答える人が大半だが、「今日は僕が運転するね。」という日本語からわかるように、「運転する」は未来の行為を表す。ところが英語の drive という動詞は、現在の行為を表し、未来の行為を表すことはあり得ない。つまり、drive のような「～する」というタイプの動詞の現在形は、「現在の習慣的行為」を表す。

(例) I drive to work every day.

「私は毎日会社まで車でいきます。」

動詞を覚えるときに walk「歩く」、decide「決める」、organize「組織する」という日本語を当ててしかないため、多くの人がこの時制のミスに気が付かない。だから It would be dangerous that you drink …とするのは完全に間違い。

ここでは「もし～で車の運転をしたら」という仮定的な気分を示すために to (V)を使う。その場合、形式上の主語 it を用いて、It would be … to (V)とする。

2) It is very dangerous to cross a busy street before the light turns green.

まず「横断する」の時制は、これから渡るのだから未来を表す。だから to-不定詞で表現する。「～を横断すること」が日常よく行われていることなら、It is dangerous to cross～とする。もし「そんなバカなことをする奴はまずいないと思うけど、もしいたら」という仮定の気分でいうときには It would be dangerous to cross ~となる。ここでは It is dangerous で十分だが、常に「現実か仮想か」を確認すること。

「信号機」は a traffic light あるいは a light。A signal は使わない。ここでは、ある通りの（特定の）信号機という意味で the (traffic) light とする。日本語では信号は「青」だが、英語では green を用いる。ほかにも「月」の色は英語では silver、「太陽」の色は yellow。「真っ赤に燃えた太陽」なんて英語にするのは困難。なお、「色が～に変わる」は turn を使うのが一般的。

「～を横断する」は cross～だが、よく前置詞の across 「～を横切って」と混同する人がいるので注意。

「～しないうちに」は <before SV> を用いる。日本語では「～しないうちに」と否定文を使うが、英語では「～する前に」と常に肯定文を使う。

(例) You shouldn't start speaking before you understand what you want to say.

「言いたいことがはっきりしないうちは話してはいけません」

「言いたいことがはっきりしない」＝「言いたいことがわかる以前に」と考える。

「交通量の多い通り」は a busy street とする。Traffic 「人・バイク・車などの流れ」が heavy 「重い」とすると「交通量が多くて渋滞している」という意味になるので、ここでは heavy は使えない。なお、街の中の「道」は a street、国道などの「道」は a road となる。

3) It is really pleasant to take a walk early in the morning, listening to birds sing.

「散歩する」は to - 不定詞でよい。「散歩する」は take a walk あるいは go for a walk も可。なお、「犬を散歩に連れて行く」なら take a dog for a walk あるいは walk a dog と言う。

「…を聴きながら～」は <~, listening to …> となる。Listen to の代わりに hear を使うことはできない。Listen to ～は「～に耳を澄ます、～を聴く」の意味だが、hear～は「～が聞こえている」という意味。

(例) I listened, but couldn't hear anything.

「私は耳を澄ましたが、何も聞こえなかった。」

だから、~, hearing …とすると「…が聞こえながら～」となってしまう変な文になる。また「～しながら」を with (V)ing とする人がいるが、このような形は使わない。

(例) ○ I fell asleep, watching TV.

× I fell asleep with watching TV.

「鳥のさえずりを聴く」は<listen to + O + 動詞の原形 / (V) ing>の形式を用いて、listen to birds sing / singing とする。

「早朝」は early in the morning と言う。Early は「ある時間軸の初めの部分」と覚える。たとえば、early in history 「歴史の幕開けのころ」、early in my life 「幼少の頃」という意味。Fast 「(速度が) 速い、速く」とは種類が違う。Early in the morning の位置は文末でも可。

4) Most Japanese high school students go to a cram school to prepare for college entrance exams.

「行く」の時制は、未来の事柄でも仮定的な事柄でもなく、「現在の習慣的行為」なので、動詞の現在形を使う。「学校に行く」は、もし学生が学校に行くという意味なら、go to school として冠詞をつけない。これは「大学に行く」go to college の場合も同様。ただ「塾／予備校に行く」は「学校に行く」「大学に行く」ほどよく使われる表現ではないので、冠詞をつけて go to a cram school や go to cram schools とする。なお cram は「知識を詰め込む」という意味の動詞にも使える。

「大半」は most of Japanese high school students としないように注意。Most of ~, some of ~, many of ~, a few of ~ という場合には、~に冠詞のついた名詞、代名詞、あるいは one's がついた名詞などの特定化された名詞が来る。

(例) Some of my students are from Kyoto.

「私の教えている生徒の中には京都出身の者もいる。」

「試験」は an exam を使う。また「～の試験」と言いたいときは、～を exam の前に置くだけでよい。

(例) take a chemistry exam 「化学の試験を受ける」

大学入試は university entrance exams あるいは college entrance exams のどちらでもよい。

「～に備える」では prepare の使い方に注意。Prepare を他動詞として用いる場合は、prepare a report 「報告書を準備する」、prepare lunch 「昼食を準備する」のように「準備するもの」が目的語に置かれる。だから「会議の準備をする・パーティーの準備をする・大学入試の準備をする」のように「～（のため）の準備をする」という場合には prepare for ~ とする。

5) When waiting for the elevator to come or the traffic light to change, most Japanese people become irritated in only thirty seconds.

「いらいらし始める」の時制はどうするか。この文は日本人の一般的特性を描写した文なので、「習慣的行為」と考えるのが適切。よって become irritated [impatient] とする。Become の代わりに get も使える。Become と get の違いは英米の違いや個人差があり、なかなか一般論として述べるのは困難。英語を外国語とする日本人がそれほどこだわる差ではない。なお、ここでの「日本人」は日本人全員というわけではないので、英文では most 「たいていの」を補うほうがよい。

「今から～たてば」は <in + 時間> を用いる。これは <It'll take + 時間> で

書き換えることが可能。

(例) "How soon will the show start?" "In twenty minutes."

「あとどれくらいでショーは始まりますか?」「20分です。」

<after+時間>は「今からある動作が～続いた後に」という意味。例えば料理番組などで、「このように混ぜたものを蒸し器に入れて、30分たてば…」この「30分たてば」は「30分蒸し器で蒸してそのあと」の意味なので、after ~の方が適している。

「エレベーターや信号を持つ」はどう表現するか。Wait for the elevator

「エレベーターを待つ」は、これだけでも通じるが、wait for the traffic light 「信号機を待つ」では不十分。だから、<wait for ~ to (V)> 「～がVするのを待つ」を用いて、「エレベーターが来るのや、信号が変わるのを待つ」と書く方がよい。

また、エレベーターや信号機は、この文に登場する日本人の「目の前にあるもの」なので、theをつける。もし a light などとすると、「東京に住んでいるある日本人が、新潟県や北海道やアメリカのとある信号機が青になるのを待つ」という意味になる。

「～のとき」は<when / while +(V)ing>を用いる。分詞構文はふつう接続詞を省略するが、「時、条件、譲歩」の意味を持つ接続詞の場合、意味

を明確にするために省略しないことがある。なお、前置詞の during は during + (V)ing とは使えない。もちろん n <when / while S+V>の表現は OK.